

研究概要：本研究開発課題では、災害現場の撮影画像から浸水深を評価し、撮影から1分以内に地図上に自動的に浸水状況を表示するシステムの開発を行う。近年、気候変動の影響により想定外の水害が多く発生しているが、既存のハザードマップは特定の条件下での被害を想定しているため、時々刻々と変化する災害状況の把握に必ずしも適さない。本課題で開発するシステムでは、撮影画像から即時に周辺の浸水状況や道路通行可否状況を可視化できるため、想定外の状況においても被災地住民の避難行動や迅速かつ的確な初動対応の実現に寄与し、社会レジリエンスの向上に貢献する。

高耐久・高感度・省電力
カメラで
常時観測

パンチルトズーム
カメラの広域映像

独自開発
カメラで
夜間にも対応

手持ちカメラによる
撮影画像にも対応

1分以内!!

浸水深：0cm

浸水深：20cm

AI型浸水深
自動検出

浸水域
GIS可視化

【研究開発期間】 令和6年度から令和7年度まで

【受託者】 国立大学法人信州大学（代表研究者）、国立研究開発法人防災科学技術研究所、双峰エンタープライズ株式会社